

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで 意欲的に学ぶ子どもの育成						
重点目標		・学力の向上と指導力の向上 ・社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 ・一人ひとりの居場所がある学級集団づくり ・健やかな心と健やかな体づくり ・家庭・地域・関係機関との連携						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学 力 の 向 上	基礎・基本の徹底と授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字・計算の繰り返し学習を実施することにより、基礎・基本の定着を図る。また読書時間を確保し、読書活動の充実を図る。</li> <li>・家庭学習の習慣化をより一層図る。</li> <li>・目標と評価を一体化させたわかりやすく、楽しい授業づくりの工夫をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの学力に関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した児童と保護者、教職員が85%以上。</li> <li>・家庭学習に関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した児童と保護者、教職員が85%以上。</li> <li>・わかりやすい授業づくりに関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した児童と保護者、教職員が85%以上。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの学力に関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した教職員は88%だった。全職員が基礎・基本の定着をはかろうと意識して取り組むことができた。</li> <li>・各学年で行っている朝学習について情報交換し、計画的に取り組んだ。</li> <li>・家庭学習に関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した5.6年生は92%、教職員が94%だった。保護者は、85%を上回らなかった。</li> <li>・各学年の目安となる時間を示し、それに向けて家庭に協力を呼びかけながら取り組ませた。</li> <li>・わかりやすい授業づくりに関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した保護者97%、教職員が100%だった。5.6年生は、85%を上回らなかった。</li> <li>・夏季研修会等を活用しながら、児童につけたい力を共通理解し、教職員で学力向上プランの作成をすることができた。</li> <li>・「書く」力を重点的に意識した学習指導ができた。</li> <li>・さらに目標と評価を一体化した授業作りをすることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからも基礎的・基本的な知識・技能を定着できるように、全職員研修に励んでいきたい。</li> <li>・家庭学習の取り組みについては、意欲向上に向けた課題を工夫するとともに、自主学習の習慣化や読書を積極的に取り組むよう低学年から指導していく。</li> <li>・家庭学習の時間を確保するために、また今後とも家庭と連携を取りながら充実させていく。</li> <li>・引き続き研究推進部と連携しながら、授業改善を図り、学習指導のあり方を見直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちを褒めて育てようとする教師の温かい声かけが素晴らしい。時には、厳しい指導で学習規律・態度をしっかりと身に付けさせてほしい。</li> <li>・自主学習における具体的なやり方の目安を持たせたり、繰り返し復習をさせ自信を持たせたりすることで、家庭学習が定着しやすくなると思う。家庭で子どもたちの学習をみてやるのが当然であるが、それができない家庭が多い。親も教師も細やかに子どもを見てやるのが大切である。</li> <li>・「達成感を味わわせる。体験を通して学習を取り入れる。」など様々な方法を取り入れ、子どもたちの主体的に取り組む力を培ってほしい。</li> </ul>	
	児童の個性を生かす	<ul style="list-style-type: none"> <li>○互いを尊重し合える仲間づくり</li> <li>○思考力・判断力・表現力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの良さを見つけ、互いに伝え合うことをめざす授業づくりに取り組む。</li> <li>・授業にペア学習やグループ学習をとり入れる。</li> <li>・どの教科においても書く活動を取り入れることで、学力の定着をはかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰とでも関わり合い、認め合うことができる。</li> <li>・「書く活動を取り入れる」ことについての教職員アンケートにおいて、「あてはまる」と答えた教師が80%以上。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教員が授業でペア・グループ学習を取り入れ、学び合う授業づくりに取り組むことができた。研究で目指すべき伝え合い・学び合う姿の具体像について、共通理解が必要である。</li> <li>・各学級にホワイトボードを購入し、意見の交流や発表に役立てることができた。</li> <li>・すべての教師が授業中に書く活動を取り入れるように努め、子どもたちが書くことに慣れ、書く力が育ってきている。ワークシートや形式、書く方法などの共有化がはかれつつある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝え合い、学び合う姿についての系統表を作成する。</li> <li>・ホワイトボードの活用についての実践を紹介、職員間で交流する。また、ホワイトボードを使いやすいように改善していく。</li> <li>・学年ごとの書く内容や身につけたい技能などの系統表を作成し、6年間の見通しをもった指導ができるようになっていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね良好である。</li> </ul>
	特別支援教育の推進、充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画的・組織的な支援体制の整備</li> <li>○個別の指導計画の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共に生き、ともに学ぶ学級・学校の実現を図る。</li> <li>・子どもや保護者の思い・願いを受け止めながら支援する。</li> <li>・継続的な支援が行えるように、引き継ぎ体制を整える。</li> <li>・支援の必要な児童への合理的配慮をふまえた個別の指導計画の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育のあり方や、様々な子どもの特性、ニーズについての研修を年間3回行う。</li> <li>・関係諸機関との連携をとりながら、クラス、学年、学校全体での支援体制を整える。</li> <li>・継続的な支援が行えるような支援ファイルを作成する。</li> <li>・合理的配慮について保護者と連携しながら、学期ごとに個別の指導計画の見直しを行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の児童について研修会を6月と2月に行い、職員の共通理解を図った。8月には、合理的配慮と実際に校内で実践されている支援について研修会を行い、支援の方法について交流をした。</li> <li>・特別支援学校の巡回相談やコンサルテーションを利用しながら、個々の児童の支援方法について、改善を図った。</li> <li>・継続的な支援の必要な児童に、ステップぐんぐん等の支援ファイルの作成を行った。</li> <li>・合理的配慮を含めた個別の支援計画について、検討・作成し、校内の支援への活用を促した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級担任や特別支援教育支援員と各担任との連携強化を図る。</li> <li>・ステップぐんぐんや引き継ぎファイルを作成する等、支援の継続を徹底させる。</li> <li>・校内就学指導委員会や校内支援委員会が効果的に機能するように、クラスや児童の様子を職員に周知させていくとともに見る機会を促す等、改善を図る。</li> <li>・特別支援学校等関係機関との連携を強化する。</li> <li>・校内の支援における個別の指導計画について、保護者や関係機関と連携しながら継続して活用していくことを徹底させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね良好である。</li> </ul>

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで 意欲的に学ぶ子どもの育成					
重点目標		・学力の向上と指導力の向上 ・社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 ・一人ひとりの居場所がある学級集団づくり ・健やかな心と健やかな体づくり ・家庭・地域・関係機関との連携					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
豊かな心・健やかな体	問題行動への指導・対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会などを行い、職員間で児童理解を深めると共に、指導力の向上を目指す。</li> <li>・多様化する事案に対応できるよう、部会内での内容を学年会などで伝達し、共通理解を図る。</li> <li>・「いじめ対策基本方針」について、改めて共通理解を図る。</li> <li>・「いじめアンケート」調査を実施し、適切な対応を図る。</li> <li>・カウンセリングマインド研修など、研修会の工夫を図る。</li> <li>・不登校傾向にある児童の家庭と連携を図り、関係機関につないでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月1回、生活指導部会を開き情報交換を行い、問題行動については組織的な対応を行う。</li> <li>・年度初めと夏季、年度終わりに研修会を開く。</li> <li>・いじめ対策委員会を月1回開く。</li> <li>・児童アンケート「困ったときや悩んだときや不安なときに、相談できる先生がいる。」と回答する割合が80%以上になる。</li> <li>・不登校傾向にある全ての家庭と連携しながら、関係機関につなぐ。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の部会で定期的に情報交換を行うことで、問題行動を把握し、組織的に対応できた部分が多かった。</li> <li>・年度初めと夏季の研修会では、目的を絞った話し合いを行うことができた。</li> <li>・情報交換と併せて、対策委員会を行うことで、いじめにあたるような事例にも早めに対応することができた。</li> <li>・児童アンケートの結果は、67.6%だった。前年度と比べるとやや減少している。引き続き職員の資質や指導力の向上を目指して、カウンセリングマインド研修等、研修会を工夫しながら継続的に実施していく。</li> <li>・不登校傾向にある児童については、家庭と連携しながら、関係機関につなぐことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困ったことや悩みを打ち明けやすい学級作りについて、言葉がけや子どもとの関わり方なども、見直していく必要がある。</li> <li>・「相談できる先生」が、学級担任だけでなく、学年などにも広げられるよう、学年全体で子どもと関わる意識を高める。</li> </ul>	概ね良好である。
	規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒指導体制の整備</li> <li>○思いやりの心を持つ子どもの育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活目標や生活のきまりを守るように、日頃からの声かけや全校集会での話、掲示物を工夫する。</li> <li>・学年会や部会などで、児童の生活の様子について振り返る機会を持ち、全教職員の意識を高める。</li> <li>・学校教育活動全体を通し、一人一人の児童が道徳的価値を理解し、道徳的な実践意欲と態度の育成に取り組む。</li> <li>・副読本を活用して、効果的な道徳の授業を展開する。(わたしたちの道徳や実話や偉人の資料の活用)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケート「子どもはあいさつなど基本的な生活習慣が身につけている」回答する割合が90%以上になる。</li> <li>・児童アンケート「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてくれている。」と回答する割合が90%以上になる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートの結果は、89.3%だった。ほぼ達成できているが、前年度の結果(90.6%)からやや減少気味である。</li> <li>・副読本を活用して、効果的な道徳の授業を展開することができた。</li> <li>・児童アンケート「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてくれている。」と回答する児童の割合が93パーセントであった。</li> <li>・副読本を繰り返し読書する児童を増やしていく。</li> <li>・思いやりの心を持つ子どもの育成につながる、更なる教材の研究が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だけでなく、家や地域でもあいさつなどに取り組むように指導する必要があると思われる。</li> <li>・朝読書や長期休暇日などの家庭読書としての活用を促すため、学校便りや学年通信での周知を図る。</li> <li>・教科化に向かうことも考慮しながら、教材や評価についての研究を引き続き行う。</li> </ul>

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで 意欲的に学ぶ子どもの育成						
重点目標		・学力の向上と指導力の向上 ・社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 ・一人ひとりの居場所がある学級集団づくり ・健やかな心と健やかな体づくり ・家庭・地域・関係機関との連携						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
豊かな心・健やかな体	体力の向上	○体力づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>各領域における系統的な学年カリキュラムの整備を行う。</li> <li>児童の体力向上を図る、学校行事を企画し実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育時数の確保ならびに、学年内の教材研究を深める。</li> <li>学校水泳では25m泳げる児童を増やす。</li> <li>体育大会、ドッジボール大会、耐寒運動などをきっかけに継続的な体力向上を目指す。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会や授業研究などを通して学年ごとの教材研究を深めることができた。</li> <li>4年生は47%、5年生は45%、6年生は80%と達成率を高めることができなかった。</li> <li>体育大会やドッジボール大会、耐寒運動などを通して、休み時間に外に行く児童が増え、体力向上に繋がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会を年に2回入れるなど、さらなる教材研究の発展を目指す。</li> <li>検定基準の見直しをはかり、系統立てた指導の徹底をはかる。また、ビート板など泳力を高めるために効果的な道具を充実させる。</li> <li>年間を通した継続的な外遊びの奨励をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小さいときから様々な運動を体験し、体力だけでなく根気強さや諦めない心なども身に付けさせてほしい。</li> <li>勝敗を付けることも一つの方法として指導法を工夫したり、「何のためにするのか」など運動をする目的を明確にして取り組ませたりして、今後も体力向上に努めてほしい。</li> </ul>
		○健康な身体・心身の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラムに応じた保健学習の実施や、保健学習参観の実施、「ほけんたより」を活用した保健指導の実施により生活習慣の改善を図る。</li> <li>懇談の機会を利用して、個別にむし歯・歯肉炎の治療や視力低下児童の早期受診を呼びかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>睡眠、食事、身の回りの清潔等生活習慣の改善を図る。</li> <li>むし歯・歯肉炎・視力低下で一度も受診していない児童の解消をめざす。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラムに応じた保健学習の実施、「ほけんたより」を活用した保健指導の実施については、高学年児童74.1%保護者98.1%教職員94%と高率を維持している。</li> <li>長期休業開けに「すくすくチェック」を実施し、生活リズムづくりへの意識化が図れた。寝る時刻の目標設定が22時以降の児童が36.9%と多かったが、目標が守れなかった子は30%と少し改善した。平日だけだと29.2%。まだまだ金曜夜から寝る時刻が遅いため改善が必要。</li> <li>懇談の機会を利用して、個別にむし歯・歯肉炎の治療を呼びかけ、一度も受診していない児童が2.3%(昨年2.6%)とわずかながらも改善した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すくすくチェック結果をもとに、週末に遅くまで起きていたり、平日より起きる時刻が遅い家庭の習慣を改善するように家族の協力が不可欠であることを呼びかけていく。</li> <li>懇談の機会等を利用して、個別にむし歯・歯肉炎の治療を呼びかけていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>概ね良好である。</li> </ul>

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで 意欲的に学ぶ子どもの育成						
重点目標		・学力の向上と指導力の向上 ・社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 ・一人ひとりの居場所がある学級集団づくり ・健やかな心と健やかな体づくり ・家庭・地域・関係機関との連携						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学校情報の積極的な発信	○参観授業の実施	・オープンスクールや授業参観で学校を公開し、学級懇談会、講演会などで情報を発信する。	・年1回のオープンスクールと年5回の授業参観を実施し、参加者が増えるような学級懇談会、講演会を工夫する。	B	・今年度も年1回のオープンスクールと年5回の授業参観を実施することができた。 ・宿泊行事のビデオ上映、関心ある講演内容の編成など、昨年度の反省をふまえて学級懇談会、講演会を工夫し、徐々に保護者の参加人数は増え始めてきた。	・講演会は、保護者の参加が増えるよう、日時や内容を熟慮する。 ・職員間で内容の情報交換し、さらに参加者が増えるような学級懇談会を工夫する。	・概ね良好である。	
	○ホームページの整備、学校だよりなど地域への公開	・ホームページでタイムリーな情報を発信する。 ・多くの職員がホームページの更新作業に関わることができるようマニュアルを配布し、行事ごとに更新する担当を決める。	・各学年の活動の様子を月2回を目安に更新する。 ・行事や児童活動の様子について、役割を決めホームページに更新する。 ・近日中の予定や連絡をホームページで知らせる。	B	・各学年の活動の様子が月2回以上を目標に更新したが、学期はじめや学期末などできない月もあった。 ・行事など、役割を決めて更新することができた。 ・月間予定も更新し、近日中の予定もトップページで知らせた。	・各学年の活動の様子を月2回更新するために、学年内で役割を分担する。	・学校、学年だよりやホームページで学校の様子がよく分かるようになった。これからも引き続き学校の情報を発信してほしい。	
開かれ信頼される学校園	危機管理体制	○安全教育の取り組みと避難訓練の実施	・各種危機管理マニュアルの作成。 ・避難訓練の実施。  ・防犯訓練の実施と、防犯設備の充実。  ・定期的な安全点検や、登下校指導。 ・交通安全教室の実施。  ・事故防止の連絡、啓発の促進。	・年3回の避難訓練、年1回の防犯に関する研修を実施し、教職員・児童共に緊急時の適切な対応について理解し、身に付ける。  ・トランシーバー研修を行い、職員の緊急時の連絡方法について理解を深める。  ・年16回の登校指導、年10回の下校指導を行う。引継ぎノートを活用し、課題のある登下校路について継続的に指導する。  ・学校周辺の事故の連絡などを行い、危機意識を高める。	B	・昨年の反省を踏まえ、日程や行事を考慮しながら年3回の避難訓練や年1回の不審者対応を想定した職員研修などを計画・実施することができた。 ・インフルエンザの集団罹患や天候によって、訓練の内容を変更することがあった。  ・校内の行事において、トランシーバーを活用する機会を多くとり、トランシーバー利用に対する意識を高める事ができた。 ・なかよし教室にトランシーバーを新たに1台設置し、研修も含めて有効に使うことができた。今後も続けて備品の充実と活用が求められる。  ・年16回の登校指導や年10回の下校指導の際に報告用のノートを活用し、危険箇所を職員間で共有することができた。  ・自転車安全教室(3年生)や全校集会等を通じて、交通安全に関する子ども達の意識の向上を図った。 ・学校周辺で子どもたちが関わる事故が発生した場合には、職員間で情報を共有し、再発防止に向けて動くことができた。	・学内外の様々な事案に対応した訓練ができるよう、訓練の内容や時程を委員会や部会の中で引き続き検討をしていく。 ・緊急を要する際に放送設備に不具合が発生しないよう、継続して設備の状況を確認していく。  ・トランシーバー等の備品の充実に向けて、引き続き職員間での備品の活用と周知を呼びかけていく。  ・登下校指導の報告ノートを引き続き活用し、安全に児童が通学できるように、職員間で共通理解を進めていく。	・自転車の安全な乗り方について、継続した取り組みが必要である。また、大人が見本を示すことが大切であるので、地区で行っている自転車安全教室なども連携し、地域全体で自転車のマナーについて意識を高めていってほしい。
		○学校教育環境充実のための取り組み	・清掃用具の点検・充実。  ・清掃用具の見直しを行い、その場にあった用具を使う  ・委員会活動との連携。  ・職員作業として、周辺環境の整備。	・清掃用具の定期的な点検と補充等を行う。  ・用具の正しい使い方の指導を引き続き行うとともに、壊れたままの清掃用具を0にする。  ・清掃活動を通して、気持ちよく生活できる教育環境が維持できるように啓発活動を行う。	B	・委員会活動と連携し清掃の点検をすることができた。  ・清掃場所にあった清掃道具の見直しを行った。  ・壊れたままの清掃用具を0にする。	・清掃用具の修理や見直し、学校周辺の清掃、整備を継続して行う。  ・壊れたままの清掃用具が0になるよう声かけを続ける。	・概ね良好である。

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで 意欲的に学ぶ子どもの育成					
重点目標		・学力の向上と指導力の向上 ・社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 ・一人ひとりの居場所がある学級集団づくり ・健やかな心と健やかな体づくり ・家庭・地域・関係機関との連携					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
教職員の資質向上	教職員の研修の充実 ○授業の質を高める授業研究	・校内研修として年1回以上授業を公開する。  ・授業の質を高めるための教材研究や研修、研究を充実させる。  ・主体的に学習に取り組むために、「めあて」「ふりかえり」を工夫する。	・全教員が年1回以上授業を公開する。  ・年9回の校内研究と、随時スキルアップ研修を行う。  ・主体的に学習に取り組むために、「めあて」「ふりかえり」を工夫する。	B	・授業公開を実施し、教育実践を交流することができた。コメントカードにより授業者は参観者から感想・意見を受け取り、授業改善にいかすことができた。 ・一人一授業の公開時期が重なり、参観に行くことが難しかった。  ・校内研究会では、授業づくりについて講師からさまざまな指導を受け、教育活動にいかすことができた。  ・職員の相互理解・交流めざしたスキルアップ研修会や、道徳教育に特化した研修会ができた。  ・昨年度に引き続き「めあて」「ふりかえり」学習に取り組む、授業の流れとして定着してきている。	・来年度も一人一授業の取り組みを続け、研究テーマの共有・職員相互の学び合いの場として活用できるようにする。 ・一人一授業の時期を計画的に配置し、早めに周知する。  ・来年度も計画的に、職員の資質の向上に向けたスキルアップ研修を行う。  ・子どもの主体的な学習を引き出すための「めあて」、子どもの学びを記録するための「ふりかえり」のありかたについて、引き続き考えていく。	・学校の雰囲気が大変明るく、教師が自信を持って教えている様子がよく分かるようになった。
学校の現状を踏まえた教育課程・組織運営	教育目標の設定 ○全教職員の学校目標達成に向けた参画  ○児童の現状を踏まえた教育課程の編成	・学校教育目標に向けたPDCAサイクルに基づいた教育活動を実施する。  ・新学習システム等を児童の実態に応じて円滑に運用する。	・学校教育目標に関するアンケート項目について、「あてはまる」と回答した教職員が85%以上。  ・校務分掌に関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した教職員が85%以上。	A	・学校教育目標に関して、「あてはまる」と回答した教職員は94%だった。 ・学校教育目標達成に向け、全教職員の共通理解を深まり、学校教育活動を円滑に実施することができた。  ・「保護者の願いをふまえた教育課程を編成している」と回答した教職員は97%。だったことから、本校の現状を踏まえた教育課程を編成し、実施することができた。	・これからも教育課程部と研究推進部、生活指導部が連携し、児童の現状を踏まえた学校教育活動を実施する。  ・保護者が願うような児童が活躍する場面を意識的に作り、新学習システムを円滑に活用し、児童の資質能力を高める。	・概ね良好である。
	校務分掌等の連携 ○一人一役の校務分掌、職場の同僚性	・学校教育活動における課題や果たすべき役割を互いに共有化し、連携して学校教育活動を実践する。	・校務分掌に関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した教職員が85%以上。	B	・「校務分掌上の一人一役など仕事の分担が適切で、教職員集団として適切に機能している」と回答した教職員は85%だった。  ・連携して学校教育活動を実施できているが、学校教育活動における課題や果たすべき役割を互いに共有化していただくことが課題である。	・常に情報交換し、互いに課題を共通理解しながら、組織的に学校教育活動を実施する。  ・今後も、職場の同僚性を高めながら、組織として動いていく。	・教師間のコミュニケーションをしっかりと取って、組織的に学校教育を進めてほしい。また、地域とも顔なじみになって協力し合って進めていきたい。

学校関係者評価総括

・家庭学習の与え方や自主学習の工夫、家庭との細やかな連携により家庭学習の定着を図られたい。また、達成感を味わわせたり、体験活動を取り入れたりして自尊感情を育て、子どもたちが主体的に学習に取り組む力を培ってほしい。  
 ・教師が自信を持って授業に向い、子どもに寄り添って指導している姿勢が見え、学校が明るくなった。今後も、ますます授業力や指導力の向上に努められたい。  
 ・学校、学年便り、ホームページ等で学校の取り組みがよく見える。今後も、学校の情報を発信し、行事等を通して保護者や地域との連携を深め、児童の健全育成に努めてほしい。  
 ・児童の規範意識や道徳性、安全に対する意識などを家庭と連携して向上させるとともに、学習環境整備を行い、安全で安心な学校生活を推進してほしい。

次年度に向けた重点的な改善点

- ①家庭と連携した家庭学習の取り組みとさらなる授業改善により、基礎基本の定着を図る。また、児童が主体的に取り組む授業作りに努める。
- ②教師の授業力・指導力の向上に努め、情熱を持って学校教育活動を推進するとともに、組織的に協働して取り組む同僚性の高い職員集団づくりを進める。
- ③生活習慣の安定と規範意識や自己有用感の醸成を図るとともに、安全・安心の学校環境作りにより、児童の豊かな学校生活を支援する。
- ④学校教育目標達成のために学校の情報を細やかに発信し、保護者・地域・関係機関との連携を深めることで、地域とともにある学校づくりを推進する。